

「白岡市食育推進計画（案）」に対する意見と回答

白岡市健康福祉部健康増進課

意見の内容	意見に対する市の考え方
1 高齢者及び高齢単身者世帯への対応・対策の必要性について 近年、高齢単身者世帯の増大が顕著である。これらの世帯に対して本食育推進計画の恩恵を行きわたらせる為にも、特別な対応・対策が必要なのではないだろうか。単身高齢者への配食サービス等既存サービスの更なる拡充も喫緊の課題である。必要とされる人達ごく一部に止まっているのが現実ではないかと懸念されるからである。	1 配食サービスは、食事の提供にとどまらず、単身高齢者等の安否確認を行ない、高齢者の地域ケアにおいて、重要な役割を担っていると認識しております。 配食サービスの有効な利用などにつきましては、高齢者の福祉サービスとして、担当課において総合的に検討し、取り組んでまいります。

2 地産地消についての問題提起

本食育推進計画の中で、“地産地消”が取り上げられ推奨されており、大いに推進すべきものと考えられる。また地域振興に住民が主体的に関われる素晴らしい仕組みであるとも評価出来る。但しここで注意喚起し、問題提起しておきたい点が一点ある。それは地産地消を推奨するがあまり、その運用が独善的かつ本末転倒に陥る懸念である。某自治体では地元産のコメ消費を伸ばすため学校給食を全て米飯給食に切り替えるという“自主政策”を採用したと聞いている。学校給食の場で米飯のみが提供されることになれば、副食物との組み合わせにも制約が生じ、現在の日本人の食生活とは乖離した内容と成ってしまうことは明らかである。学校生徒達に食の重要性と素晴らしさ、可能性を認識して貰うためにも偏りのない献立・内容が求められているのである。

3 民間営利企業・非営利NPO、医師会等との連携・協業の推進

本計画の達成・実現の為には利用出来るものは活用し、支援を仰ぐ姿勢が必要であり、あらゆる可能性を追求すべきである。営利企業の中では食事宅配業者、コープ（生協）、コンビニ等との連携が重要であり、こちらの意図や・目的を理解頂きながら協業の条件や可能性を探り実現していくかがポイントになる。日常的に市民と接触し健康に直接関わる医師（会）との連携も一層重要であり、本計画推進に於ける役割分担も含め緊密に連携していく必要がある。

2 「地産地消」は、地域で生産された農産物を地域で消費しようとする活動を通じて農産物と消費者を結び付け、地場産物への愛着や安心感を深め地域の農業と関連産業の活性化を図ることと位置づけられています。

食育は、これらの「地産地消」の取組を、市民の健康づくりや食文化の伝承の側面から推進するものです。

御意見の学校給食の例に見られるような視点にも配慮し、農政に係る担当課と連携してまいります。

3 御意見のとおり、計画の推進にあたっては、個人、団体、行政など幅広い関係者により実施していくものであり連携は重要であると考えます。本計画の策定にあたっては、健康づくりに関係する団体の代表者や知識経験者、公募による委員により構成される「はびすイッチ会議」において、御意見をいただいておりますが、この会議には、白岡市商工会や白岡市医師会などの代表者にも委員として参加いただいております。今後も、この会議において計画の進捗状況の確認や調整を行っていく予定です。

また、本計画の各基本目標の取組内容として「地域や団体、関係機関ができること」を例示しておりますが、更に、御意見を参考とさせていただき、企業も含めた地域の関係機関との連携の可能性を検討してまいります。

4 P.21（団体ヒアリング調査結果）について、ヒアリングが高齢者に片寄っていないか。努力が足りないのではないかな。 食に直接かかわる記述は大切だが、「食はコミュニケーション」であり、P.24（食育推進に対する課題）の心に栄養だけでなく、精神をつくりあげる効能がある。P.24（食育推進に対する課題）に地域や伝統をもっと具体的にしてほしい。地域で柿やいちじくやざくろなど、マイナーになってしまった果実が放置され立ち腐れしてはいないか。食に関わる“物”は記述が多いが精神に関わる部分は欠けているのではないかな。	4 本計画の策定にあたっては、各団体へのヒアリングによる状況把握に加え、乳幼児健診などの保健事業等を通じた市民アンケートを実施し、働く世代、子育て世代を中心とした多くの方から回答を得ることができ、その結果も計画策定の参考とさせていただきました。 食のこころの側面に関しましては、基本目標に「こころが喜ぶ食事」を掲げ、共食の勧めや食文化の伝承、感謝の心を育て大切にしていけることを目指しております。 御意見を参考に、引き続き地域の状況を把握しながら、関係機関や団体との協力のもと、各取組に工夫を加え推進してまいります。
--	---